

第2学年 道徳学習指導案

日 時 平成28年11月9日(水)

学 級 2年2組(男12名 女17名 計29名)

場 所 2年2組教室

指導者 佐藤 美穂

- 1 主題名 「弱さを乗り越えて」【D-22】
- 2 資料名 「『これ以上、頑張れない』って平気な顔で言うな」(正進社 キラリ道徳2)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

道徳指導要領の内容項目 D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」(よりよく生きる喜び)の(22)に「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだす。」とある。これは、自分だけが弱いのではないことに気づき、その弱さを克服しようと自分を奮い立たせ、目指す姿に近づけることに目を向けようとする人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できる生徒を育てる内容項目である。そして、この内容項目は、小学校高学年の内容項目のDの22「よりよく生きる喜び」を受けたものである。

中学校段階では、自分に自信が持てずに、劣等感にさいなまれたりすることもあり、人を妬み、恨み、うらやましく思うこともある。しかし、自分だけが弱いのではないということに気づかせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるということに目を向けられるようにする必要がある。生徒には、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信を持ち、自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いださせたい。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、さまざまな活動に一生懸命に取り組もうとする反面、すぐにできそうにないものや自分には難しいと感じるものについては「わからないからできない。」「やりたくない。」などの後ろ向きの発言が見られたり、取り組む前から諦めてしまったりと意志の弱さが見られることがある。また、自分の限界を感じると、「これ以上はできそうにない。」「このくらいでいいや。」などもう少し頑張ろうという気持ちや苦しいけれど頑張っ乗り越えようという気持ちがやや足りない面も見られる。

また、学習面や部活動での実力の差に悩み、自分に自信が持てなくなり劣等感にさいなまれたり、他人を妬んだり、羨ましく思っている生徒も見られる。

このような実態を踏まえ、本資料を通して、人間の持つ弱さ、それを乗り越えていく強さと気高さを感じ取らせ、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いださせ、今後その価値に迫れる生き方をしようとする態度を育てたい。

(3) 資料について

この資料は、プロ車椅子ランナーの廣道純さんが、バイク事故で車椅子生活となり、そこからどのような気持ちで努力し、結果を出してきたかがインタビュー形式で描かれている。

廣道さんは事故前まで我慢や努力することが嫌いで好きなことだけするといった自分勝手な生き方をしていた。高校1年生の時、バイク事故で下半身不随になり車椅子生活となったのをきっかけに、第二の人生は同じことをしてはいけないと気持ちを切り替える。そこで出会ったのが車椅子レースである。廣道さんは仕事をしながら車椅子レースの練習をしてレースに出場し続けた。20代半ばには日本一になるために、世界チャンピオンのジム・クナーブに教えてもらいにアメリカへ行く。そこで練習メニューなどを教わり一緒に練習をした。その結果日本一となる。ジムとの出会いによりレースでは目標を立てては達成することを繰り返し、ステップアップし続けた結果、世界のトップアスリートとなりパラリンピックにも出場した。廣道さんの苦しい状況でも頑張れば結果がくるということから、生徒には自分に弱い部分があっても、前向きに頑張ることでその弱さを乗り越えていく事ができるということを知って欲しい。また、廣道さんのように弱さを乗り越えて生きることが人間としての生きる喜びであることにも気づかせ。本時の価値に迫っていきたいと考える。

(4) 研究主題との関わり

「いわての復興プログラムの具体の21項目③「価値ある自分」

「自己肯定感をもち、復興に貢献しようとする生徒の育成」

～いのちを大切に、郷土を理解する活動を通して～

自己肯定感は、自己を見つめる心の動きであり、この自己を見つめる心は自己から見た自分と他者から見た自分の丹通りが考えられる。よって、自尊感情を育てるためには、自己を見つめ自己の考えや良さに気付く、「自己を肯定的に評価できる場」とお互いの意見を交流させながら、他者の考えや気持ちから学んだり、重要な他者である友達や家族、教師から受容されたり気持ちから学んだり、「他者から肯定的に評価される場」を設定することが重要であると考え。そこで、協働的な学びの場を生かした指導の工夫を行うことにより、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、自尊感情を高めることができ、そのことが、道徳性を高めることができ、そのことが、道徳性を高めることにつながっていくと考えた。

そこで、授業の中に以下の2つの学習活動を位置づける。

- ① グループでの話し合いを通して、自分の考えを表現したり、相手の意見を聞いたりして交流する協働的な学びの場を位置づける。

本時においては、中心発問である『廣道さんの「外見や性格だけではなく、いのちを輝かせて濃密に生きる」とはどういうことだろう』について、話し合いを行わせる。話し合いの中で廣道さんは怪我という弱さを克服して、強く生きているということや、弱さを乗り越えて生きることは楽しいことであるなどに気づかせたい。

- ② 本時の価値と自己を結びつけ、

本時の価値は、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見いだす」ことである。この価値に照らし合わせ自分自身の生活を振り返させるとともに、自分の弱さを克服しよりよく生きるために、何ができるのかについて問い、自分や他の人がお互いの強い気持ちを認め合うことで、よりよく生きていけること、そのことが喜びであることに気付かせる。

また、終末の教師の説話では、学級の中で自分の弱さを克服しようとして前向きに頑張っている生徒の紹介をする。この2つから、身近で頑張っている人がいることを知り、自分にも弱い部分はあるが前向きに頑張ればきっとできるという前向きな気持ちを持たせることが自己肯定感につながると考える。

5 教材分析図

主要場面	心の動き	気づかせたいこと	おもな発問
<ul style="list-style-type: none"> ・15歳まで ・夜遊んで朝帰る ・アルバイト 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にも迷惑かけずに一人で生きていける ・我慢や努力は嫌い ・好きなことだけやる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手な生き方をしている ・目標に向かって努力するとは程遠い生活を送っている 	<p>○事故前の廣道さんはどのような思いで生活していたのでしょうか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高校1年生 ・バイク事故で脊髄損傷、下半身が麻痺する大怪我 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷惑をかけていないというのが勘違いの思い上がりだった ・今までの生き方は間違っていたのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我で思うように動けず苦しんでいた ・周りに迷惑をかけてしまった 	<p>○事故に遭い、下半身が麻痺しているのを知ったときの廣道さんはどんな気持ちでしたか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ中に車椅子ランナーの練習を見て自分自身も車椅子レースにのめりこんでいく ・仕事をしながら大会に出場し続ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事もレースも目標を立てて達成したら次を目指そう ・パラリンピックの会場も視野に入れて練習したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しくても努力をし続けている ・目標を立てて達成することを繰り返していくうちに自分に力がついてきていると実感している 	<p>○車椅子レースにのめり込み、パラリンピックが視野に入るまで努力し続けることができたのはなぜでしょう</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・20代半ば ・日本一を目指していた ・世界チャンピオンのジム・クナープに教わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の本気がジムに伝わり、ジムは本気でメニューを教え一緒に練習をしてくれた。 ・ジムの気持ちを無駄にしないためにもっと頑張ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・廣道さんは頑張れば結果がついてくること示している ・なりたい自分に向かって頑張る姿をさらけ出している 	<p>◎外見や性格だけではなく、いのちを輝かせて濃密に生きるとはどういうことだと思えますか</p>

6 本時の指導

(1) ねらい 人間には弱さや醜さもあるが、それを克服し強く生きることの大切さを知り、よりよく生きようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 パラリンピックの映像を見る。		○映像を見て車椅子スポーツの興味を引きつける。
展 開	2 資料「『これ以上、頑張れない』って平気な顔で言うな」を読んで話し合う ○事故前の廣道さんはどのような思いで生活していたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・努力をしたくない ・自分1人で生きていける ・好きなことだけやって楽しい 	○廣道さんは自分勝手な生き方をして、目標に向けて頑張るとは程遠い生活を送っていたことをおさえる。
	○事故に遭い、下半身が麻痺しているのを知ったときの廣道さんはどんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ショック ・悔しい ・これからどう生きていけばいいのだろう。 	○資料には記載されていないが、怪我で苦しんでいたと想像させる。
	3 ○車椅子レースにのめり込み、パラリンピックが視野に入るまで努力し続けることができたのはなぜでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・レースの話をするとう患者さんが喜んでくれるからもっと頑張ろうと思った。 ・設定した目標を達成するのを繰り返し返していくうちに、自分自身がステップアップしていくのを実感したから。 	○廣道さんは苦しくても努力すれば結果がついてくることを知っていて、行動していることに気づかせる。
	◎「外見や性格だけではなくいのちを輝かせて濃密に生きる」ということはどういうことだと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張っていること。 ・損をしない生き方をすること ・なりたい自分になろうと努力すること ・目標を立てそこに向かって努力していくこと ・自分の弱さを克服して強く生きること。 ・目標を達成させて生きるのが楽しいと実感すること。 	○廣道さんの弱さを克服しながら強く生きる姿から「外見や性格だけではなく濃密に生きる」が意味することを考えさせる
3 自己と価値を結び付けて考える ○みなさんは、日常の生活の中で自分の心の弱さに負けないで学習や部活動等に取り組んでいますか。また自分の弱さを克服しよりよく生きるために、できることはどんなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活の試合で負けてしまうと、悔しいままで終わってしまうことがあった。試合での課題を次に活かすことでこれからの部活動も充実すると思う。 ・テスト勉強が嫌で最後まで頑張れないことがあった。苦しくても頑張ればやらないよりも良い結果が出ると思う。 	○自分の普段の生活を振り返り、自分の今の状況を把握させる。自分や他の人がお互いの強い気持ちを認め合うことで、よりよく生きていけることそのことが喜びであることに気付かせる	
終末 10分	4 教師の説話を聞く。		○学級の生徒の中で、自分の弱さを克服し、自分を奮いたたせながら前向きに努力している人の話を聞かせる。